

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

今回は、伝法地区で子供たちと楽しく遊ぼうとさまざまな活動を行っている「伝法子どもと遊ぶ会」をご紹介します。

伝法子どもと遊ぶ会

「伝法子どもと遊ぶ会」(会長 須田敦子^{あつこ}さん)は、子供たちにとって楽しい活動をしよう、休みの土曜日に遊び場を提供しよう、と、伝法小PTA母親委員会を中心となって、平成五年七月に発足。そして、伝法公民館での本の読み聞かせから始まった活動は、次第に地域から評価され、運営面で伝法地区の民生児童委員協議会や生涯学習推進会、子ども会などから支援を受けようになり活動が広がりました。

現在約二十人の会員が、毎週金曜日の伝法公民館での本の読み聞かせのほか、毎週月曜日に伝法小学校へ出かけ、一・二年



3月14日に行われた春のおまつり

生を対象に各クラスで本の読み聞かせをしています。また、春のおまつり、野の草で遊ぶ会、クリスマス会など、季節に合わせた行事も多く催しています。会員の皆さんは次のように話してくれました。

「私たちの会は、自由参加で自分ができるときにやりたいことを思う存分やる会です。ですから、みんな無理せずに続けられるし、自分の思っていることが実現できるのが楽しいですね。もしかしたら子供たちより自分たちの方が楽しんでいられるのかもかもしれません(笑)。また、子供たちが本読みを楽しみに待っていてくれたり、外で声をかけてくれたりと、反応を示してくれるのがとてもうれしいですね。それに、地域や小学校で私たちの活動を認めてくれていたので張り合いにもなります。

ただ、この会の名前は知られるようになりましたが、まだまだ活動の内容まで理解されていなくて限られた活動になっていくのではと感じています。もっと地域の人に参加してもらえ工夫をしていかなければいけませんね。子供のために何か活動したいと思っている人はたくさんいるはず。この会がそういう人たちとのかけ橋の役割を果たしていけたらと思います」



市民ミュージカルの振りつけも担当する泉流日本舞踊の第一人者

泉 裕紀 さん

(大淵)



泉 さんが、日本舞踊を始めたのは四歳のとき。平成二年には日本舞踊協会主催の「新春舞踊大会」で第一席の会長賞を受賞。昨年十二月には、東京の俳優座劇場で行われた創作舞踊展で二十分間の大作を一人で踊り切るなど、泉流を代表する日本舞踊家として活躍しています。

その傍らで、十一月に開催の市民ミュージカル「新曾我物語・名残りの小袖」や姫名の里まつりでの創作舞踊の振りつけをしたり、富士まつりの「かぐや姫絵巻をつくろう会」の一員として衣装を担当したりと、さまざまな活動を行っています。

こうした活動について、泉さんは「それぞれみんなの気持ちの一つになってつくり上げてい

くもので、やりがいがあるし、とても楽しいです。富士市の街は、新しいものが多く、姫名の里まつりや富士まつりのかぐや姫絵巻などは、後世に伝えていくものなので、とても大切だと思います。ですから、もっと多くの皆さんに参加していただきたいですね」と話します。

舞踊家としては、五月三十一日にロゼシアターで行われる富士市の各流派がそろって行う日本舞踊の公演に向けてお弟子さんとともに練習に励んでいます。また、師匠になって二十周年を記念して、来年発表会を企画するなど、多くの舞台が控えています。泉さんは、「日本舞踊は日本のことを知る上で大切なものだし、奥深く楽しいものです。でもあまり知られていないので、ぜひ多くの人に見てもらいたいし、やってもらいたいですね」と話してくれました。